

| 祝辞 |

MESSAGE

for JAC Recruitment 50th Anniversary

50周年の節目を記念して、これまでの歴史の中で
深くかかわらせていただいたお客様や
事業を共に紡ぎあげてきた当時の役員など
当社をよく知る方々からメッセージをいただきました。

MESSAGE
01

Koji Nagai

永井 浩二

野村ホールディングス株式会社 取締役会長



弊社は、ロンドンの地でビジネスをスタートされた貴社から多くの優秀な人材をご紹介いただけたことで、その後の拠点拡大と事業成長の礎を築くことが出来ました。また、ご紹介いただいたロンドンの弊社ゲストハウスは今も大切に活用しており、多くのお客様よりご好評をいただいております。私たちがロンドンで事業の成長を目指す中で、貴社が果たされた役割の重要性に深く感謝致します。

さらに、2006年9月22日に貴社がジャスダック証券取引所に新規株式公開を果たされた際、その大きな節目に弊社も支援の一端を担わせていただけたことを大変誇りに思います。当時、私は田崎夫妻と直接お話しする機会がございましたが、その時のお二人の晴れやかな笑顔といただいた温かいお言葉は、今でも心に深く刻まれております。貴社がその後も力強く前進されている姿を見るたび、その節目にご一緒できたことを大変誇らしく感じます。

「志をつなぐ」という企業理念のもと、貴社がこれまで世界各国において優秀な人材を企業へとつなぎ、経済および社会の発展に多大な貢献をされましたことに心より敬意を表します。また貴社は、DX人材やハイエンド人材など昨今の多様なニーズにも応えておられ、人材紹介業界をリードする模範的な存在であり続けております。

これからの50年も、貴社がさらに飛躍されることを祈念しております。貴社が人と企業の未来をつなぎ、新たな価値を創造されていく姿を、私たちも引き続き応援し、共に歩んでまいりたいと存じます。

創業50周年の慶びを申し上げますとともに、末筆ながら、貴社並びに社員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

Hiroyuki Nakazato

中里 浩之

ジェトロ前監事、ジェトロ・ロンドン事務所元次長



JAC Groupの創業50周年を心よりお祝い申し上げます。

JACは1975年に英国で創業し、1988年には日本法人として株式会社ジェイ エイ シー ジャパン（現・株式会社ジェイ エイ シー リクルートメント）が設立されました。その後、日本法人はジャスダック上場を経て、現在では、東証プライム市場に上場を果たすまでに発展を遂げられました。これは、日本にとって重要な「対日直接投資」の先駆的な成功事例の一つであると、私は捉えています。また、JAC Groupは現在、海外10か国に拠点を展開し、さらなる成長を続けていらっしゃいます。

田崎忠良最高顧問と初めてお会いしたのは、私がジェトロ・ロンドン事務所で次長を務めていた約20年前に遡ります。グループ会社であったTazaki Foodsにも大変お世話になりました。ダボス会議開催中の「Japan Night」というレセプションに際し、日本酒の調達について関係者から相談を受け、Tazaki Foodsにご協力いただいたことも覚えています。ちなみに、2004年の清酒輸出額は45億円でしたが、2024年には435億円と、20年間でほぼ10倍となり、また、アルコール飲料全体で日本産農林水産物・食品の輸出金額のトップとなっています。Tazaki Foodsもこの成長に大きく貢献されたことと思います。また、2013年4月に私がジェトロの北海道地域統括センター長に就任した頃、日本産農林水産物・食品の輸出促進がますます重要な業務となっていました。その際、Tazaki Foodsに北海道産の昆布を購入していただけることになりました。供給元である函館の事業者の方にとっては初めての輸出でしたが、昆布漁に携わる漁師の方々の誇りにもつながる大変意義深い取り組みとなったと伺っています。その後、函館の事業者の方の輸出は他国へも広がり、また、Tazaki Foodsとは現在も良好なお取引が続いていると伺っており、大変嬉しく思います。

JAC Groupが海外に拠点を設立される際には、私たちから情報提供をさせていただく機会もありました。一方、日本国内における高度外国人材の活用などでは、JAC Groupにお世話になり、長年にわたるご縁を大変ありがたく思っております。

現在、日本では少子高齢化が進む中、外国人材の活躍がますます重要となっています。また、世界情勢が不安定な中、日本企業が海外拠点を通じて現地の雇用を創出することは、日本の存在感を高める上でも極めて重要です。JAC Groupは、国内外において「人財」という貴重なリソースに関わる重要な役割を果たされています。さらに、田崎最高顧問が2016年に私財を投じて設立された田崎財団は、「バイリンガル・バイカルチャーの真のグローバルリーダーを育成する」ことを目的に、高校から大学までの英国留学を継続的に全面支援されています。この取り組みは、日本の未来にとっても極めて意義深いものであり、心から敬意を表します。

改めて、田崎忠良最高顧問、田崎ひろみ会長・社長とのご縁に深く感謝申し上げますとともに、JAC Groupのさらなるご発展と、社員の皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

私は、創業期からJACグループ（当時はTazakiグループ）の発展に尽力し、ロンドンにおけるビジネスの礎を築いた社員の一人として、TazとHiromiと共に歩んできました。JACがまだ小さな組織だった頃から、数々の課題に挑みながら、日系ビジネス界に貢献できたことを誇りに思っています。

Tazと初めて出会ったとき、彼はすでに優れたリーダーであり、企業家としての才能を発揮していました。エネルギーで独自の視点を持ち、その考えを周囲に伝え、人を動かす力がありました。ユーモアのセンスも抜群で、イギリスのジョークを理解するだけでなく、私よりも面白いジョークを言うことさえありました。

当時のロンドンの日系ビジネス界は銀行・金融が中心でしたが、Tazは「自分たちが最初にやる」ことを重視していたため、私たちは銀行・金融に限らず、新たな業界に挑戦し、パイオニアとなった事業もありました。JAC News, JAC Discount Service, JAC Guidebook, JAC Conference and Banqueting, JAC Catering など、ここには書ききれないほどの多彩な事業に携わりました。

1995年にはUKの事業が食品、不動産、リクルートメントの3つの事業に絞られ、私自身はTazaki Foods Ltd.の責任者として引退までのキャリアを全うしました。JACグループで長きにわたって働いたのは、挑戦できる環境があったから。私たちはチームとして働き、多くの試練を共に乗り越えてきました。

このキャリアのなかで、JACは単なる企業ではなく、自由 (Freedom)・規律 (Discipline)・公平性 (Fairness) という強い理念を持つ組織だと実感しました。この価値観は、私たちが日々の業務で大切にしてきたものであり、今の社員の皆さんにも確実に受け継がれていると信じています。

JACグループは、二人の強力なリーダーシップのもとで50年にわたり成長を続けてきました。これからも、人とビジネスをつなぐ役割を果たしながら、世界経済の発展に貢献していくことでしょう。その未来は、間違いなく明るいものだと思います。私も皆さんと一緒にこれからもJACの成長を見守りたいところですが……そろそろゴルフに行かなくては！

JACグループの50周年を心から祝福し、皆さんのさらなる成功をお祈りしています。

※ Tazは田崎忠良のニックネーム。

Brian Young

ブライアン ヤング

1975年に会計や管理部門の立ち上げをサポートするためにT.Tazaki & Co. Ltd.に入社。以降、様々な事業の運営に携わり、1992年にダイレクター兼コーポレート・セクレタリー（会社秘書役）に就任。後にTazaki Foodsの代表として、2013年まで従事。



ロンドンにて、働いていた仲間とともに。右がヤング氏

「飯塚さん、うちのグループで働きませんか？」 今から42年前の暑い夏のこと。その1カ月前に初めて、ロンドンのシティにあったJAC Recruitmentを訪れ、面談してくれたひろみさんに仕事の紹介をお願いしておいた結果だった。「はい、なんでも喜んでしますので、是非宜しくお願いします。」

こうして始まった田崎グループでの仕事は、返事に違わず、和食材輸入卸部門から不動産部門へ、さらにリクルートメント部門へと多岐に渡った。当時、日本企業の海外進出がかなり進んでいたこともあり、日本語のできる人材紹介市場は停滞気味だった。その状況下で、4~5社の競合会社がしのぎを削っていた時期でもあったと思う。

1987年10月19日、月曜日の朝、いつもは顧客との電話のやり取りで騒々しい事務所がシーンと静まり返ってしまった。ブラックマンデーと言われた金融危機だった。冬に向かって静かな事務所ほど辛いものはなかったが、この状況が一年は続くという推定でリストラに着手し、とりわけ厳しい冬の季節を通り抜けてきたこともあった。

そんな中、今でも私の脳裏にしっかりと残っているのは、上司であったひろみさんが私に語った言葉、「JAC Recruitmentを大きくして自社ビルを建てたい」。そのころの事業規模を考えれば、それは夢の夢のまたその上の夢と言ってもおかしくなかった。しかし、長い間ひろみさんと一緒に働かせていただいて、可能性に疑問をもったことはない。現在のJAC Recruitmentは、東京証券取引所上場会社だが、なるべくしてなったというのが私の感想。

ところで、JAC Recruitmentに仕事紹介をお願いするに至ったのには訳があった。私は高校生の頃から海外への関心をずっと持ち続け、大学卒業後、外資系企業の営業で資金を貯めてから会社を辞め、英国南部の海辺のブライトンに語学留学をしていた。妻と娘も連れての滞在だったので、国内旅行などの目的で、売りに出ている中古車を買った。この英国産オースチン・アレグロという車は、走行中に凄まじい量の水蒸気をボンネットから噴き出し、エンジンをストップ、ガソリン車であるのにまるで蒸気機関車の様相。すでにかかなりの散財の上、修理費がとてつもなくかかりそうで、2年の滞在予定が危うくなった。こうして、職探しにロンドンまで出かけることにした。もしあの時、とんでもないオースチン・アレグロをよく確かめないうちで買うという失敗をしていなければ、また、求職の面談をしてくれたのがひろみさんでなかったら、今の私はなかったと言える。JAC Recruitmentも多くのチャレンジを乗り越え、50周年。心よりお慶び申し上げます。

Tadaharu Iizuka

飯塚 忠治

1983年にTazakiグループに入社し、Tazaki FoodsやJAC Strattonsでの勤務を経て、1996年から1999年までTazakiグループの副社長を務める。JAC Recruitment UKではDirectorも務め、JACグループの成長期を支えた経営陣の一人。



田崎ひろみのTazakiグループ社長就任パーティにて。右から2人目が飯塚氏

Hiroto Takeya

武谷 広人

株式会社プロフェッショナル・サーチ 社長

2000年2月、株式会社ジェイエイシー・ジャパン（現株式会社ジェイエイシー・リクルートメント）に入社し、営業部長、取締役、代表取締役社長を歴任。当社初の新卒採用にも携わり、成長・拡大期を支えた。



ポルトガルサミットのディナーにて。左が武谷氏

「A little attitude makes a big difference.」 小さな態度（姿勢・配慮）が、大きな違いを生む。これは、元英国首相のウィンストン・チャーチルの名言とされています。2000年2月1日、JACに入社し、壁にかかっていたこの言葉を初めて見た時に、はっとしました。「顧客満足」という大きなものではなく、社員一人ひとりが自覚・自律して、日常的なサービス向上に努めることが仕事の大前提だと気づかされる言葉だったからです。約4年間、私はミスターとミセスにお仕えして、ご自身がこれを実践されていらっしゃることを目の当たりにしました。

例えば当時、グループのダイレクターたちが集まるミーティングをポルトガルで開催していましたが、我々がポルトガルの空港に到着した際、ご夫妻で迎えに来てくださいました。お二人と同じヴィラに宿泊した時には、毎朝、朝食を作ってくださいました。また、ミーティング後の親睦ゴルフでは、何度も田崎（忠良）さんと同じ組でラウンドさせていただきましたが、そこで驚かされたことがあります。①田崎さんは、我々を楽しませることが優先で、自身のスコアは気にしない。従って、ご自分のプレイは大変早い。②我々がラフに打ち込んだボールを真っ先に探しに行かれる。一番偉い人が、部下のボールを藪の中に入れて探し回るなど、なかなかできないことです。逆に、ご自分のボールは「もういいから、ロストボールにするよ」とおっしゃってペナルティーをかぶり、他の人のプレイが滞らないようにされる。③他の人のプレイを誉める。私のようなヘタクソでも。ゴルフは人間性が表れるスポーツだと言われますが、「一事が万事」だと思います。

ミスターとミセスは、毎朝笑顔で「おはよう!」、帰宅される時も「お疲れ様。お先に!」と、明るく大きな声で挨拶されます。お食事の時は「何が食べたい?」と、自分より相手の希望を優先されます。

JACでは「お電話ありがとうございます。JAC Recruitmentでございます」と電話を取る。お客様がお越しになったら「〇〇様ですね。お待ちしております。」お帰りになる時は、エレベーターのドアが閉まるまで深々とおじぎします。社内にゴミが落ちていたら、拾って捨てる。このような行動は、私がこれまで勤めていた会社では徹底できていませんでした。

現在のJACは会社が大きくなり、ミスターとミセスのお人柄に直接ふれる機会は少ないかもしれませんが、今後も創業者の精神を受け継いでください。この度は、創業50年、誠にありがとうございます!

Takeshi Matsuzono

松園 健

2008年11月、営業本部副本部長として株式会社ジェイエイシー ジャパン（現 株式会社ジェイエイシー リクルートメント）に入社。営業本部長、専務取締役を経て、2011年から2021年まで代表取締役社長を務める。在籍時にはJACグループ子会社の社長も兼任するなど、当グループの成長と拡大に寄与。



東証一部上場のセレモニーにて。
左が松園氏



JACグループ設立50周年おめでとうございます。人材紹介の業界において半世紀にわたり成長し続けていることは、お客様からの厚い信頼をいただいている証であり、業界をリードする存在であることには疑いもなく、そこに従事した私たちの誇りでもあります。

私が役員としてJACに入社したのは2008年11月のリーマン・ショック直後でありました。米国の投資銀行リーマン・ブラザーズの経営破綻を引き金に世界中が同時に大不況に陥った時です。いきなり各社からの求人が無くなり面接も入らず、たちまち売上げが半減し、毎月大幅な赤字が続くことになりました。その中でも唯一、ヘルスケア部門だけは黒字を確保してくれていましたが、全社を支えるまでにはいかず、このままでは会社が立ち行かなくなるという経営判断から、少しでも良い条件になるようなパッケージを用意し、断腸の思いでリストラを敢行し、速やかに会社の立て直しに取り組みました。Mrs. 田崎とともに、改めて「JACは何者？」で、どのような体制で事業を進めていくべきかを日々熱く話し合いながら、内容の骨格を決めていきました。それは品質に重点を置き、ターゲットを若手層から不況にも強い高額帯のミドルクラス・ハイクラスにシフトし、分業から両面型へ移行していくというプランでした（二度とリストラはしないという思いも込めていました）。当時、その体制について話していたのは、400人程度のコンサルタント数までなら実行可能性があるのではないかということでした。Mrs. 田崎は体制図や運用のイメージ、KPIなどの数字を達筆な「鉛筆」で何枚か下書きされており、それをたたきにプレストするのが楽しくて仕方なかったことを今でもよく覚えています。

それから黒字に転換しながら3年程度かけて完全両面型の体制に切り替えることになりましたが、今では400人どころか1,500人体制でもそれ以上でも運営できるだけのJAC独自のやり方と体制を構築していることには、皆さんの頑張り含めて感無量です。苦しい時期を経験し、世の中から認知され、支持されるまでに生まれ変わったJACを皆さんと作り上げたことは、私の一生の宝です。これからさらなる半世紀の成長に向けて、AIと併存できるお客様への高い品質をもって世界に冠たる会社にしていってください。